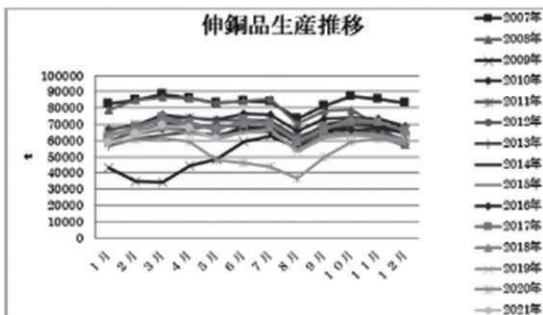


■前月の国内指標

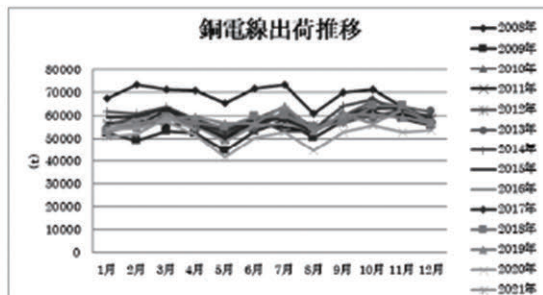
5月伸銅品生産量は前年同月比27.5%増加の6万1,410トンだった、5か月連続増加した。また、昨年14品目全て前年同月実績を上回った。



出典 日本伸銅協会

日本電線工業会発表の出荷速報 (推定)

銅電線出荷量は、前年比+9.1%の4万5,900tであった。



出典 日本電線工業会

■国内概況まとめ

【伸銅品生産】

5月伸銅品生産量は前年同月比27.5%増加の6万1,410トンだった、5か月連続増加した。また、昨年14品目全て前年同月実績を上回った。

銅条は、前年同月比33.2%増で8カ月連続プラス。前年同月比8ヶ月連続のプラス。引き続き前回好調だった2018年の同月実績を超えている。銅条や銅箔の需要急増から国内生産が逼迫しているとの話が聞こえることに対し、同協会は否定した。現時点において、納期遅延が起きるケースがあっても、顧客の生産ラインを止める事態になっていないとのこと。部品不足から自動車の一時的な減産があるが、下期に向けて自動車生産が更に増えることから、伸銅品の顧客は部品確

保を進めている。そのため、銅条などの伸銅品の引き合いは強い。

黄銅棒は、前年同月比17.3%増加。4ヶ月連続のプラス。同比4ヶ月連続プラス。ただ、2019年の同月実績を下回った。

【7月の見通し】

【自動車】

4月の自動車生産が+64.1%。6月国内販売台数が前年比+9.2%。生産急増は半導体不足の影響はないとの認識、販売も幅増。今後生産、販売共に増加していくかに注視。

【伸銅品生産】

5月伸銅品生産量は前年同月比27.5%増加の6万1,410トンだった、5か月連続増加した。また、昨年14品目全て前年同月実績を上回った。更に増加するか注目。

【電線】

前年比+9.1%の4万5,900t。

内訳は、国内が+8.2%、輸出が+80.4%。内外とも増加。内外ともにプラスが続くかに注視。

銅輸出は、電気銅が内需要因から減少。スクラップは外需旺盛に伴い増加。

銅輸入は、電気銅が内需玉から急減。スクラップは内需回復から微増。

【スクラップ景況予想】

流通「一次問屋」の在庫は、銅建値が117万の高値安定から、一時106万まで急落したタイミングで放出されたため、ある程度余裕あり。

需要面に関して前月に続き、半導体不足に伴う自動車需要の減少は結果的になく生産は急増傾向にある。

しかし、原料高値安定のためメーカーはスポット買いに徹していると思うように入らないメーカーが高値買いの傾向も見受けられる。

【LME・為替予想】

今月は①米経済、景気対策と②中国の景気動向、原料価格抑制策に左右される。

①に関しては、バイデン米政権は24日、米国で超党派で1.2兆ドル規模のインフラ投資が合意されたことから米景気は回復傾向が続くのではないかと見られる。

今回の超党派によるインフラ投資法案の合意は、共和党が米国雇用計画のなかで賛同できる項目であるインフラ投資（ハードインフラ）を中心にまとめた内容。

②に関しては、16日に発表されていた5月の中国工業生産の伸びが4月の9.8%から8.8%に鈍化したうえ、27日には利潤の伸びが同じく57%から36.4%に大幅に減速したこと、中国政府による原材料高騰への取り締まり強化策実施したが効果があまりなかった事などが挙げられる。

これらを踏まえた7月の銅価格は9,500-10,000ドル（セツル）との予想。

ドル円値は109円～111円（TTM）台を予測。

銅建値に関しては104万-111万円程度と予測している。

（「6月の銅の概況及び7月の見通し」終わり）